令和 7 年度 学校経営計画表 (定時制・夜間制)

1 学校の現況

学校番号	22	学校名	県立水戸南高等学校				課程	定時制 夜間制		学校長名	西野 守郎					
教頭名	渡邊 利視 (定時制 昼間制)			森田 繁 (定時制 夜間制)			根本 純一 (通信制)			事務室長名	廣瀬 克彦					
教職員数	教諭	64	養護 教諭	2	常勤 講師	4	非常勤 講師	21	実習教諭, 実習 講師, 実習助手	1	事務 職員	6	技術職 員等	15	計	118
生徒数	課程・学科		1年		2年		3年		4年		合計		合計ク ラス数			
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
	定時制 (昼) 普通科		29	45	26	34	24	23	0	2	79	104	8			
	定時制 (夜) 普通科		6	7	9	2	7	8	0	0	22	17	4			
	通信制	普通科		62	105	68	106	71	103	59	74	260	388	28		
ライフデザイン科		11	20	10	29	13	23	—	—	34	72	3				

2 目指す学校像

「生徒一人一人のニーズ・スタイルを尊重し、学校本来の大切さを日々感じる学校」

単位制で作る自分の時間割、生活スタイルで選べる3つの課程、手厚い指導体制を生かしたセルフプロデュースの学習を実現する。

J R 水戸駅から徒歩圏内の利便性と、緑に囲まれた閑静な環境を生かして、持続可能な心静かな学びを実現する。

3 三つの方針 (スクール・ポリシー)

<p>「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)</p>	<p>【水戸南高校の学びの場で、「これから」の自分に向き合う資質・能力を身に付けて、困難に負けない自分を創る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○いつでも「これから」(未来)を意識し、「得たこと」よりも「やり続けること」に価値を感じながら、学び続けていくことの楽しさを資質として習得する。 ○世の中の成り立ちを知り、面白いと感じる分野と出会い、自分にプラスをもたらす人に出会い、自分の秀でた部分に出会い、高校時代に第1歩を踏み出す。 ○困難を乗り越えてきた経験も自信に変え、何度でも立ち上がれる人になる。「今までどおり」が通用しない未来において立ち上がる力を磨く。この場所で過ごす「高校生活の日々」の大切さが将来の自分の糧となる。 ○「自分にはできない」とあきらめず、「今はまだ、できないだけ」ととらえ、一人一人が目標を実現可能と信じ、自分の「学びに対する好奇心」に火を点ける。 ○学びの中で「自分にはどのような力があるか」と自己探究し、「将来何になることができるか」、「なりたい自分になる」など、自分の強みと本来の個性を表現できる資質を養う。 ○個性と多様性を大切にする自由さの中で、自立と自律の能力を磨く。自分の目標と今の自分がどう違っているかを見極めて、自分で修正できる力を身に付ける。
<p>「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)</p>	<p>【単位制の特色を最大に活かした水戸南高校の学びで、自分の意思と選択で学べる時間割を提供し、一人一人のニーズに応える】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「なりたい自分になるための学びの場づくり」のため、単位制の特色を活かす。学びの積み重ねによって3年間で卒業でき、多様な教科科目、個別対応も含んだ発展的学習を可能にする。 ○全体的な効率よりも、一人一人の興味・関心・進路希望による科目選択が優先される水戸南カリキュラム。自分ペースの学びを実現し、生徒の個々に合わせた創造的・挑戦的な学びを展開する。 ○生徒主体のカリキュラムにおいて、自立した個人として授業に参加することで、自らが学んでいるという当事者意識を高め、より深く学ぼうとする意識を向上させる。 ○それぞれの教室においては、「間違える、わからない、質問する」が「当たり前」となるような雰囲気醸成され、学びが安全安心な場であることを約束する。

別紙様式1 (高)

	<ul style="list-style-type: none"> ○「今はまだ、できないだけ」を教員が意識し、それぞれの学びの世界に導き、刺激し、能力を引き出すことで、生徒がクリエイティブに「何か」を見つけて、自分を変えていく力を認知する。 ○義務教育の9年間では、誰もが苦手と感じる分野を持つ。高校生活スタートで誰もが必要とする基礎・基本の学びを導入し、高校での学びへの移行をスムーズにする。 ○ICTを有効に活用する。タブレット等を活用することで、自分の意見を伝達が苦手な生徒にとってもハードルが低くなり、自分との対話ができることから人との対話が可能になっていく。
<p>「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)</p>	<p>【「これまで」よりも「これから」を重視し、今あるものを良いと感じられ自分と相手の大切さを感じられる人を求める】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○水戸南高校は一人一人の可能性の開花と、自己調整力の向上を目指している。“できないのではなく、今はまだ、できていないだけ”という想いから、生徒が本来持っている力を呼び起こし、自分の可能性や方向性を思い描けるように導いていく。「種は内に持っている。水が注がれば花が咲く」という考えの下、生徒の発達や個性に寄り添う場であることを知ってほしい。 ○良いものを良いと思い、普通にあるものを大切に感じ、あたりまえにあるものの価値を考えられる人、今は未完成でも、予測不能と言われる社会の中で、学ぶ楽しさを見つけようとする人、「自分の大切さ」と「相手の大切さ」をともに考え、自分のことも相手のことも大切に考えられる人に、本校に入学してもらいたい。 ○教員は、生徒一人一人の持つ能力と向き合って日々懸命に教育活動に取り組んでいる。生徒に安全と安心、そして安らぎを提供したいと考えている。 ○進学や就職で、さまざまな進路希望を持つ生徒が共存するのが水戸南高校の特色。水戸南高校を点数や偏差値等のモノサシで選ばずに、自分の感性と選択で本校に入学してもらいたい。

4 現状分析と課題 (数量的な分析を含む)

項目	現状分析	課題
進路指導	令和6年度卒業生においては、すべての生徒の就職先及び進学先を決定することができた。しかし、不登校等により欠席が多い生徒、コミュニケーション能力が不足している生徒、勤労観・職業観が未熟な生徒も少なくない。また、家庭の経済的事情により、進学者は少ない。	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的・体系的なキャリア教育の充実 ・望ましい勤労観・職業観の育成 ・進路選択における生徒の主体性の育成 ・進学希望者への対応
学習指導	義務教育段階における学習内容の定着が不十分な生徒及び学習の習慣が身につけていない生徒が多い。学習に関するアンケート結果によれば、81.3%の生徒が、「授業に真剣に取り組んでいる・まあ取り組んでいる」と回答、40.6%の生徒が、「家庭学習をしている」と回答、生徒の授業に取り組む姿勢の肯定的な回答割合が低下した。一方、自分に自信が持てない生徒、コミュニケーション能力が乏しい生徒も多く、人間関係で悩みを抱え、学習に影響を与えてしまう生徒もいる状況である。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習習慣の確立と家庭学習の促進 (家庭学習の取組は50%以上を目指す。) ・基礎学力の定着 ・学習意欲を高める指導の工夫と、個に応じた体験的・課題解決的な学習の促進 ・言語活動の充実 ・授業改善推進チームを中心とした授業改善の推進
生徒支援 教育相談 特別支援	心因性の不登校ばかりでなく、怠学的傾向がある生徒、基本的な生活習慣・規範意識や公共心に欠ける生徒等、様々な課題を抱えた多様な生徒が存在している。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒理解の深化による信頼関係の構築 ・基本的な生活習慣、規範意識、公共心や道徳性の育成 ・学校全体として組織的、計画的な生徒指導の推進
特別活動	中学校時代に不登校を経験した生徒や外国籍の生徒が多く、集団生活にうまくなじめない生徒が多い。また、コミュニケーション能力や社会性等の課題により、良好な集団生活ができない生徒も増えている。一方で、資源ごみ回収や介護体験講座等の体験的な活動を実施し、生徒全員がボランティア活動や多様な他者と交流する機会を設けることにより、特別活動の出席率が8割超となっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい人間関係の構築やよりよい学校生活を築こうとする自主的態度の育成 ・学校行事、定通体育大会や生活体験発表会等への参加率向上 ・キャリア・パスポートの効果的な活用 ・校外におけるボランティア活動の推奨

別紙様式1 (高)

働き方改革	時間外在校等時間については、月平均で、10時間未満となっている。また、月平均45時間超過者及び月平均80時間超過者は0であった。勤務時間の終了時刻である21時30分以降に仕事を行う職員は少なく、退勤時間遵守の意識は高い。一方で、年度当初、10月、年度末の在校等時間が長くなる傾向にある。この時期の計画的な業務の遂行や業務の精選、業務分担の平準化が必要である。	<ul style="list-style-type: none">・ 計画的な校務の遂行及び業務の精選・ 校務分掌内での協働体制の構築と業務の平準化・ 退勤時間21時30分の遵守
-------	---	--

5 中期的目標

- 1 生徒がよりよい進路選択をするため、自ら情報を収集し、実現に向けて計画的に進める能力の育成を目指す。進路ガイダンスやキャリア・パスポートの積極的な活用をとおして、低学年からキャリア教育を推進し、進路意識を高める。
- 2 文化やスポーツの能力を伸ばさせることができる、働きながら学ぶ生徒に対応できる、単位制や三課程の特色を生かした普通科教育の場として、中学校卒業の生徒が進路先として選ぶ高校であることを定着させる。
- 3 交通至便な立地にある静かな学びの場で、小中学校で不登校を経験した生徒等が落ち着いて学習できる環境を提供するとともに、学び直しや中途入学ができる高校として、一人一人の目標実現に寄与する。
- 4 髪型や服装の制約がほとんどなく、生徒が自分自身と向き合う場として、学校本来の大切さを感じることができるオーソドックスな高校であることを中学校や地域に周知する。
- 5 教職員一人一人が働き方改革に取り組み、自らの授業を磨くとともに、日々の生活の質や教職人生を豊にすることで、自らの人間性や創造性を高め、生徒に対して効果的な教育活動を推進する。
- 6 自他の生命を尊重し、他人を思いやる心を育てるとともに、自己が生来もつリソース（強み）に気付き、個性の伸長を目指す姿勢を身に付けさせる。

6 本年度の重点目標 (定時制・夜間制)

重点項目	重点目標
職業観を育むキャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動全体をとおして、組織的・系統的なキャリア教育を一層充実させ、卒業予定者すべての進路希望実現を目指す。 ・自己の進路希望実現に向けて主体的に考え、取り組む態度を養うため、進路だよりを年3回以上発行し、進路に関する情報提供に努める。 ・進路面談を年4回実施し、生徒個々へのサポートをより充実させ、きめ細かに一人一人のキャリア発達を支援する。 ・ジョブカフェやハローワーク等の外部機関と連携して、見学会や講演会を実施する。また、生徒の進路行事出席率67%以上を目指す。
生徒の思考力、判断力、表現力等を育むための授業改善の推進 (授業改善への取組)	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な生徒が混在する中で生徒一人一人について学習の習熟状況を把握する。また学習形態や指導方法を工夫し、個に応じたきめ細かな学習指導を行いながら授業の改善に取り組む。 ・進路希望実現に向けて年間3回の実力テスト【コンテスト形式】を実施し、一般常識・基礎学力等の定着を図る。 ・タブレット端末やICTを活用した授業に取り組み、生徒が達成感を得られる授業の改善と、個に応じた体験的・課題解決的な学習の促進を目指す。 ・授業改善推進チームを中心に、年間を通じた授業改善に取り組む、生徒による授業評価(授業満足度)を3.1以上にする。
生徒支援及び道德教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・外部機関やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と連携を図りながら、教育相談体制を充実させ、多様な課題を抱えた生徒に対して共感的理解に立って各種支援を行う。面談希望者には100%担保する。 ・外部機関との連携を充実させ、教員集団の共通理解のもと組織的・計画的な支援を行うことで、基本的生活習慣を確立させる。また、道徳的な判断力や実践意欲と態度の育成を図る授業を充実させる。 ・「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの防止に努め実態把握や対応を適切に行う。「高校生活アンケート」の回収率100%を目指す。

別紙様式1 (高)

<p>特別活動の充実 (キャリア・パスポートの活用)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活体験発表会や南祭に向け、ホームルーム活動や生徒会活動を活性化させ、望ましい人間関係を形成するとともに自己肯定感や自己有用感を育む。 ・各種学校行事への主体的な取組により、協力して諸課題を解決しようとする実践的な態度を育て、いじめを排除する空気をもった生徒集団を構築する。 ・南高スピリットアッププログラムを効果的に活用するなど学校行事を充実させ、集団への帰属意識や連帯感を深め、公共の精神を養う。 ・定通体育大会や生活体験発表会等への参加を奨励し、活動者数の増加に努める。生活体験発表会は5名以上の参加を目指す。 ・キャリア・パスポートを活用し、自らの学習状況やキャリア形成を振り返りながら自己実現につなげる。 ・校外のボランティア活動の積極的な参加を推奨し、地域社会とのつながりを自覚させるとともに、一人一人の自己肯定感を高める。
<p>教職員の資質向上 (働き方改革)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な生徒に対応するための生徒支援スキルの向上を図る。学校内外における各種研修への参加をとおして教職員の資質及び能力の向上を図る。 ・ICTを活用した授業を実践し、生徒の興味・関心を高める授業展開や方法を深化させる。 ・あらゆる業務に適切な方法でICTを取り入れ、教職員全体で業務の効率化をさらに進める。 ・計画的な校務の遂行や校務分掌内での協働体制の構築と業務の平準化を図り、時間外勤務時間を縮小する。
<p>情報発信による学校への理解促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ウェブページや広報誌、学校案内(スクールガイド)等の手段を十分に活用して、保護者・地域に対し、積極的に情報を提供する。 ・学校評議員や中学校(義務教育学校)の先生方の意見を参考にし、PDCAサイクルの循環により教育活動を改善する。 ・中学校訪問や学校公開を計画的に実施して、本校に対する理解促進を図る。